

カンデンレスリールの500V絶縁抵抗計による計測方法

1. アースと充電部(電源線)の絶縁抵抗計測

ブレーカーを「ON」で計測して $1\text{M}\Omega$ 以上で合格。実際は $1.5\text{M}\Omega$ 位です。

(通常コードリールの基準値は $5\text{M}\Omega$ 以上、実測値は $100\text{M}\Omega$ 以上になります)



■測定方法

コードリールプラグのアースと電源刃部に片方ずつあててそれぞれ測定します。電気用品安全法→電気用品の技術基準を定める省令→別表第四→配線器具→6接続器→附表第四に基づいて数値は、 **$1\text{M}\Omega$ 以上**と定められています。

(カンデンレスリールは電流計を有するものであるため $1\text{M}\Omega$ 以上に該当します) 漏電に対しての通常の点検では「1. アースと充電部」のみの測定で良い。

2. 充電部(電源線)のみ、両極間の絶縁抵抗計測

カンデンレスリールには、ブレーカーの一次側にアース監視用電子回路が取付してあります。そのためブレーカーのスイッチを「切」にしても導通してしまいます。どうしても行わなければならない場合は以下のようにしてください。

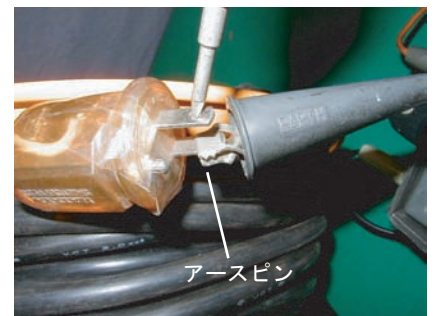
①SBRE型はコンセント面3本のビスを外す。SBGE型はブレーカー面の3個のナットを外す。



②カンデンレス基板から出ている白線を切断する。



③ブレーカーを「切」にする。



④トビ出しプラグ付きの場合はアースピンをテープなどで押し込み固定します。



⑤500V絶縁抵抗計にて計測します。

※写真の500V絶縁抵抗計はYOKOGAWA TYPE3213を使用しています。

$1\text{M}\Omega$ 以上で合格(この写真では $100\text{M}\Omega$ 以上です)



⑥計測後②で切断した白線をハンダ付けや圧着端子などで接続し直してください。

※注意 トビ出しプラグパイロットランプやカンデンレスアース監視基板が導通部品が接続されていますので、**500V絶縁抵抗計接続すると破損することがあります。**



プラグのアースピンを出したままや基板を接続したまま(白線カットしないで)500V絶縁抵抗計にて計測するとパイロットランプに500Vがかかり導通してしまい針が振れます。

針が振れる(約 $0.2\text{M}\Omega$)